

「早坂文庫」：交換抜き刷り資料コレクションの構築

Offprints collection of late Professor Shozo Hayasaka (1928-2007) repositd in Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

田口公則*1・小林瑞穂*1・新山直子*1・坂井陽子*2・大島光春*1・斎藤靖二*1・内野 哲*3・飯澤直美*3

(*1 神奈川県立生命の星・地球博物館、*2 神奈川県立図書館、*3 生命の星・地球博物館ボランティア)

かつて研究者の間で行われていた紙媒体による論文の抜き刷り交換は、いまや PDF という電子媒体に取って代わった。本冊があれば、その一部である抜き刷りを収集することは、図書館業界では一般的ではない。しかし、モノを収集する博物館、そして科学史の資料という視点からは、抜き刷りを主とする研究者の交換資料は価値をもつと考える。本発表では、早坂文庫に含まれる交換抜き刷りの整理作業を紹介し、文献コレクションの構築の概要を述べる。

1 「早坂文庫」：交換抜き刷り資料とは

早坂祥三（1928-2007）所蔵の文献類（早坂文庫）のうち、研究者からの論文や資料いわゆる“交換抜き刷り”について生命の星・地球博物館が受入を行った。その内容は、論文の抜き刷りを主とするが、本冊そのものや、ニュースレター等のコピー、なかには講義プリント等の資料が含まれている。また、早坂祥三の父・早坂一郎（1891-1977）が所蔵していた“交換抜き刷り”資料類も含むものである。



私どもの博物館では、文献類を収集し、図書室に収蔵しております。



先生、それでは抜き刷り類を博物館で扱えますか？

父、一部の資料類とあわせて文庫の一部を博物館に収蔵し広く供することは可能か？



早坂邸書庫の様子

- ①早坂邸書庫の資料類
- ②紐で束ねられた古い資料（早坂一郎所蔵抜き刷り類）小藤文次郎のラベルが見える。
- ③著者フォルダに整理された早坂祥三交換抜き刷り資料（右上の棚）。

早坂先生って？

早坂一郎（1891-1977）

古生物学・地質学者。台北帝国大学教授、金沢大学・北海道大学教授、島根大学学長などを務めた。古生代の化石記載に始まる多数の学術的研究のほか、地学普及にも力を注ぎ子ども向けの『化石の世界』などを著している。

早坂祥三（1928-2007）

地質学・古生物学者。鹿児島大学教授、同大学学長など務めた。鹿児島湾をはじめとする地域地質研究のほか、航海調査による南海洋での生物総合調査オウムガイ研究などに寄与された。

2 ボランティアと抜き刷り資料の整理

早坂邸の書庫から → 博物館のライブラリー書庫へ

① 早坂邸にて梱包・発送



田口・大島が仙台にて梱包作業。抜き刷り類を優先的に選搬。

③ コンテナへ仮整理



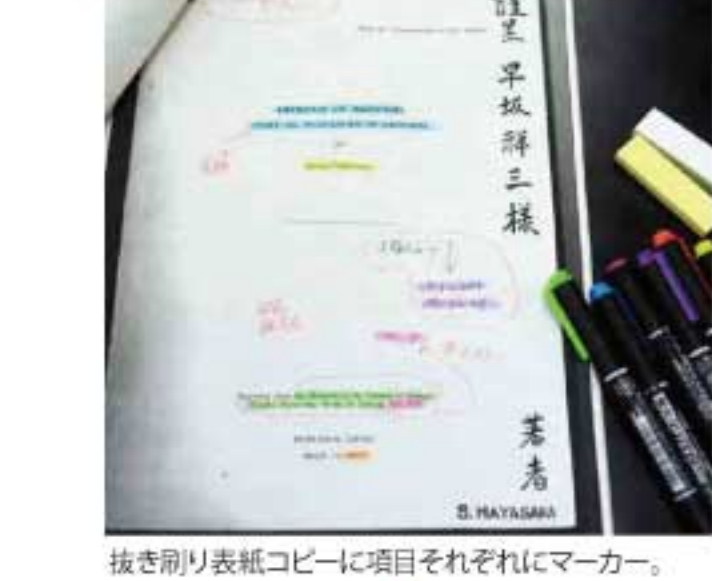
括られていた文献束は、みかんコンテナに開梱。収蔵庫にて選搬。

⑤ 文献と袋で番号確定



シリアル番号貼付の袋に資料をセットし、番号を確定。袋ごとコピー。

⑦ 入力項目の印付け



抜き刷り表紙コピーに項目それぞれにマーカー。

② 文書箱 博物館到着



文書保存箱を、選搬して整理箱として利用。運搬総数は50箱を超える。

④ 文献 No. 付き袋準備



クリアバック袋にシリアル番号シールを貼付。

⑥ 文書箱で進行管理



文書保存箱ごとに、それぞれの作業進捗を記録・共有。

⑧ 文献カードで入力



項目がマーカーされたコピー（文献カード）をもとにデータ入力。

データの蓄積

文献の蓄積



Excelにて資料検索（2013年9月現在8317件）



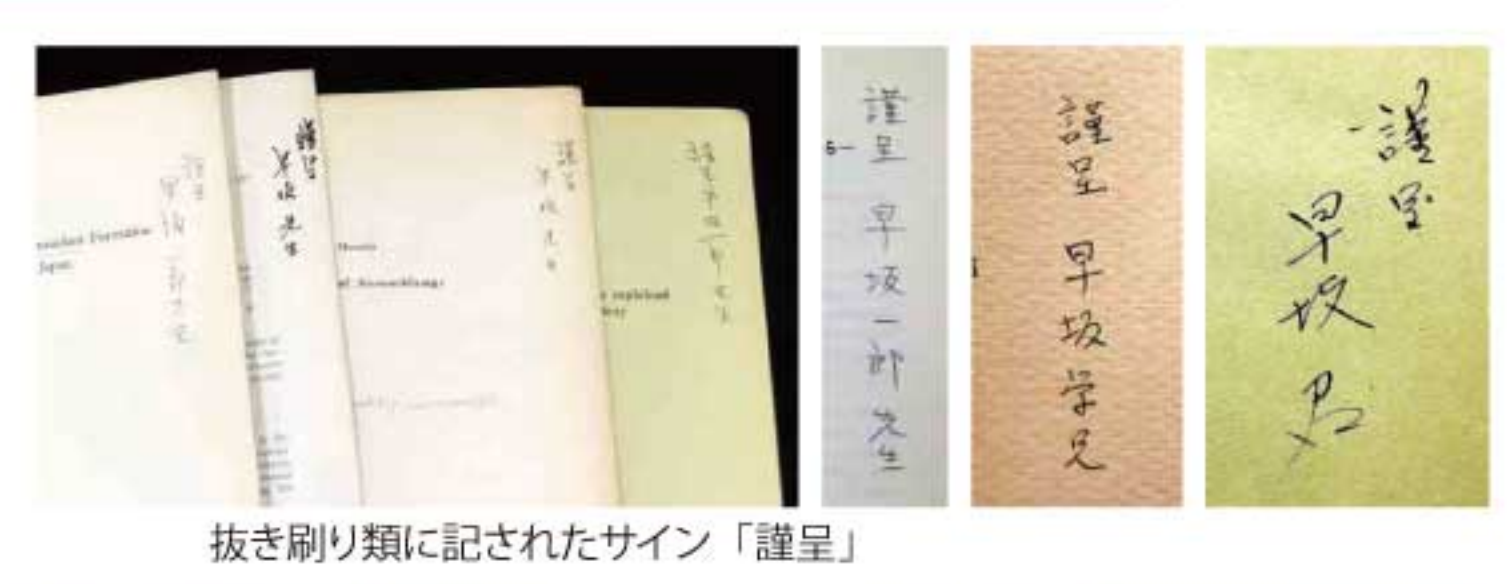
図書室書庫に並ぶフォルダ 文献資料番号に配架

3 抜き刷り資料が持つ情報

一般に、抜き刷り送付時には、「謹呈〇〇先生 著者〇〇」という筆記を付すことが多い。また、蔵書印や各種の書き込みがなされていることがある。

これらのことにより“抜き刷り”は、文献がもつテキスト情報だけでなく、科学的な人の関わりを記録したモノとしての質的側面をもつことになる。

このように“抜き刷り類”は、PDF文献では持ち合わせることのできない資料としてアーカイブされるべきものであり、また、データベース構築の意義があると考えられる。



抜き刷り類に記されたサイン「謹呈」



資料に見られる早坂一郎・早坂祥三の「蔵書印」やサイン



資料中に見つかる私信類。抜き刷りのなかには下線が引かれた文献も見つかる。

4 現状と課題

- 現在、作業半ばであるが、8000件を越える資料を整理し、博物館のミュージアムライブラリー（図書室）に収蔵した。早坂一郎所蔵の欧文抜き刷りをはじめ、両博士ご自身の著作等、多数の資料は、これから整理となる。
- 科学史記録となる、蔵書印、“各種の書き込み”、送り状等の情報を、どのようにデータ化しアーカイブすべきかは今後の課題。



整理途中の資料群



整理された資料のうち、古い資料のひとつ。1885年の和田維四郎（ナウマンの弟子、地質調査所初代所長）の資料（独文）。このほかに、小藤文次郎（明治期、地質学の大家）、矢部長克（東北大地質古生物教室初代教授）らの文献類も含まれる。

謝 辞

早坂祥三先生と文献整理の仕事を開始してから10年が経つ。その間、先生の奥様の美子氏には、仙台での文献整理にあたり大変お世話いただいた。また、生命の星・地球博物館の歴代司書とボランティアのみなさんには、その都度、作業に協力いただいた。みなさまに感謝申し上げます。



生命の星・地球博物館ミュージアムライブラリー図書室（書庫）に並ぶ早坂文庫。